

令和3年(2021)9月16日
10月1日修正

富山市有峰に生息するサンショウウオについて

有峰森林文化村
指導員 石黒 秀雄
指導員 田島 敏美

有峰は標高1000m余りの高原盆地でブナやミズナラを主とした落葉広葉樹が広く分布しています。有峰周辺には、サンショウウオが生存可能な環境が各地に存在し有峰森林文化村の過去の調査によるとクロサンショウウオ・ヒダサンショウウオ・ハコネサンショウウオ・ハクバサンショウウオの4種が確認されています。各サンショウウオの特徴と有峰での生息状況について報告します。

■ハクバサンショウウオ

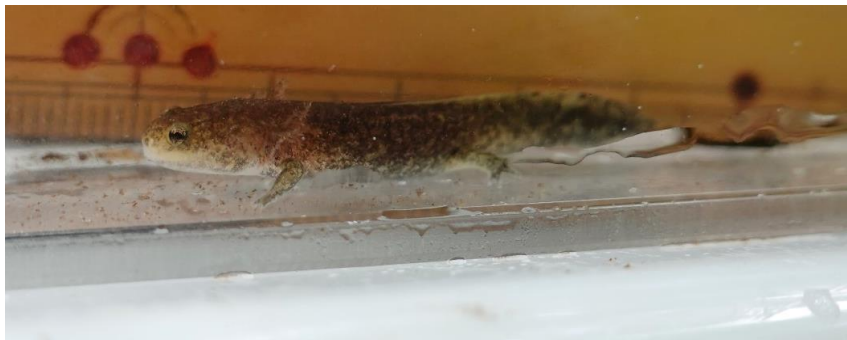
日本固有種。新潟県、長野県、富山県、岐阜県の一部に分布。自然林や二次林にある湿地で見られる。

繁殖期：四月中旬～5月上旬、有峰では6月。細流の淀んだ場所や湧水のある湿地等の止水域で産卵。9月から変態、上陸する。主にミミズを食べる。

環境省RL2020では絶滅危惧 I B分類

個体差による色調のちがいがあり写真例のほか黄系の個体が多くみられる他のサンショウウオと比べ出目。鼻先が短い。

体長：28～35mm



ハクバサンショウウオの幼生(9月11日撮影)



ハクバサンショウウオの生息場所(猪根平9月13日撮影)

■クロサンショウウオ

日本固有種。福井県から長野県、茨城県以北の本州、佐渡島に分布。海岸近くから標高2500m以上に生息する。森林の林床にある倒木や岩下で見られる。

繁殖期：四月中旬～5月上旬、有峰では6月、細流の淀んだ場所や湧水のある湿地等の止水域で産卵。9月から変態、上陸する。主にミミズを食べる。

繁殖期：2月～7月の雪解け時期で、池、沼、水路等水深のある場所等の止水域で産卵する。雪解け時期に関係して有峰では6月産卵となる。

環境省RL2020では準絶滅危惧に指定されている。

湛水箇所での生息のためか胴太の体型

他の種よりも水面にあがる呼吸間隔が短い

体長：39～53mm



クロサンショウウオの幼生(9月14日撮影)



クロサンショウウオの生息場所(猪根平9月14日撮影)

■ハコネサンショウウオ

日本固有種。東は茨城県北西部。北は新潟県中北部、南は和歌山県、西は山口県に囲まれた本州に分布する。冷涼で湿潤な山地溪流や森林に生息する。

繁殖期:5月～8月と10月～12月で、山地溪流の岩石の下や伏流水中等に、長い卵形の卵のうに包まれたクリーム色をした卵を産む。幼生は、指先に黒い爪を持つ。変態までに2年以上を要するため、生息地では様々な発生段階の幼生がみられる。

凡例の写真のとおり指先にツメがあることが明瞭
流水域での生育のため他の種類よりも体型がスリム
体長:33～46mm



ハコネサンショウウオの幼生(9月14日撮影)



ハコネサンショウウオの生息場所(折立付近9月14日撮影)

■ヒダサンショウウオ

日本固有種。中部地方から中国地方にかけて標高35～1800mにすむ。自然林の残る山地の小さな溪流付近にみられる。背面は紫褐色で黄色の斑紋が多い個体や少ない個体が見られるが、腹面にはない。四肢が短く、尾は円筒形をしている。

繁殖：2月上旬～4月中旬に溪流の源流部で行われる。ガレ場状に岩が積み重なる水中の岩下などの流水域に産卵する。幼生は黒い爪を持つことが多い。

他の種類とくらべ、足が短いこと・尾が円筒形であること・鼻先が丸い

体長：31～32mm



ヒダサンショウウオの幼生(9月15日撮影)



ヒダサンショウウオの生息場所(桐山付近9月15日撮影)

参考文献

- ①ありみね高校生学びの森実施報告書 公益社団法人富山県農林水産公社 2013
- ②富山市有峰周辺におけるハクバサンショウウオの分布調査報告 有峰森林文化村2021
- ③決定版日本の両生爬虫類 平凡社
- ④原色爬虫類両生類検索図鑑 北隆館
- ⑤野外観察のための日本産両生類図鑑 第3版 緑書房